

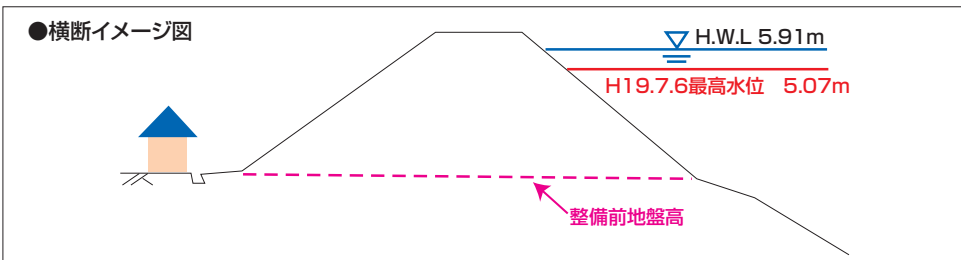
築堤の完成に伴う治水効果の発現【輪中堤・緑川水系緑川岩下地区(熊本県)】

緑川本川上流においては弱小堤、並びに無堤部であったことから、過去より度重なり出水被害を受けていました。そのため、平成14年度より水防災事業に取り組んでおり、岩下地区は平成17年度に輪中堤整備が完了しました。

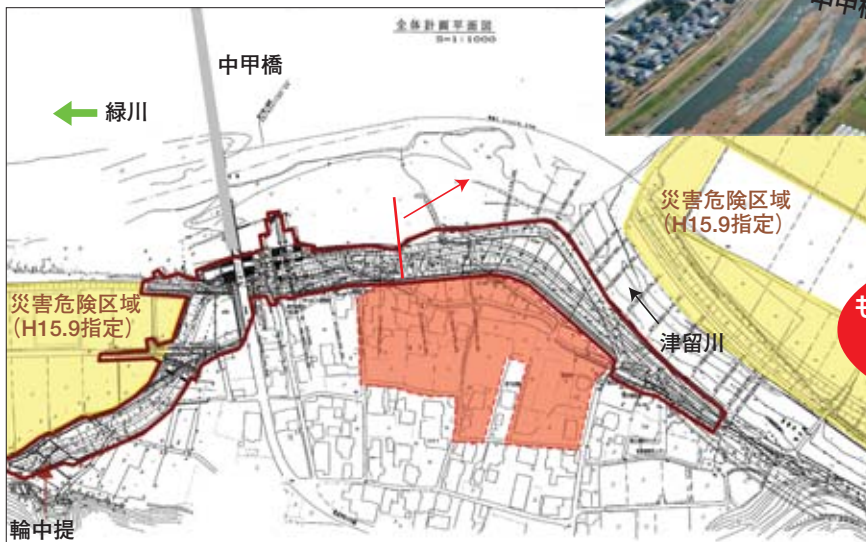
H19年7月6日未明から降り続けた雨は、熊本県各地で記録的な豪雨を観測しました。時間雨量30mmを超える集中豪雨が数時間続き、6.7日の2日で緑川上流域の内大臣雨量観測所で542mmを観測しました。中甲橋水位観測所においては「はん濫危険水位」を47cm超える5.07m(7/6 13:10)の観測史上最高水位を観測しました。

今回の出水は浸水被害を受けた平成7年7月出水、平成9年7月出水をはるかに上回る水位を記録したにも関わらず、水防災事業により整備を行った岩下地区においては、浸水被害は発生していません。

(水防災事業整備前に今回と同等規模の出水が発生していた場合、10戸の家屋が浸水被害を受けたと想定されます。)



平成9年7月出水



H19年7月6日  
もしも輪中堤が完成していなかったら…  
家屋10戸が浸水!!  
浸水面積 約20,000m<sup>2</sup>!!

※緑川水系緑川浸水想定区域図より推定